

THE ROOF



これは、食卓に焼いたパンを立てて供するための食器、トースト・ラックです。

5組の細い針金を組み合わせたもので、円形や六角形などいくつか形の異なるバリエーションがありました。このトースト・ラックは、先のとがったアーチ型を用いており、シンプルながら力強い造形は、近代的な摩天楼の建築のようにも見えます。

作者のクリストファー・ドレッサー(1834～1904)は、19世紀後半に活躍したイギリスのデザイナーです。彼は、家具、金属製品、陶磁器など、さまざまな生活用品のデザインを手がけていますが、20世紀初頭に現れるモダンデザインの源流となるような活動を実践しています。

焼いたトーストを乗せると、きつととてもおいしそうに見えることでしょう。

クリストファー・ドレッサー
《トースト・ラック(ポイントアーチ型)》
1881年 金属、電気メッキ 当館蔵
製作:ジェイムス・ディクソン&サンズ社

Contents

- 「最後の印象派」ーベル・エポックの象徴^{アンティミスト}〜親密派のまなざしー
- 「MOA美術館名品展」ー秀吉、利休、仁清、宗達、光琳、師宣、北斎…そして又兵衛ー
- 「英国紳士の審美眼」ー郡山市立美術館コレクションの粋を特別展示ー
- 寄稿 「生誕140年 吉田博展」関連ワークショップ「初心者のための木版画」をふりかえって
- 寄稿 美術館で「凶工の時間」での出会い
- Report
- Information

ベル・エポックの象徴〈親密派のまなざし〉

アンティミスト

20世紀の初頭、パリの美術界は印象派という新たな潮流が浸透し、さらに彼らを乗り越えて革新的な芸術を打ち立てようとする動きが盛んでした。次々と沸き起こる新しい運動は人々の注目を集め、今日の美術史においても、後期印象派、フォーヴィスム、キュビスム

などにスポットが当てられてきました。

そのような転換期において、印象派までの自然主義の流れを受け継ぎ、印象派や新印象派の絵画技法を用いて身近な事物を描き続けた芸術家たちがいます。「画家彫刻家新協会(ソシエテ・ヌーヴェル)」と名乗る彼らは、共通の表現方法や理念を持たず、友情関係、そして制作の姿勢や作品に漂う雰囲気や繋がるグルー



エルネスト・ローラン《背中》



アンリ・ル・シダネル《テーブル、白の調和》

活躍しながら、1900年には「画家彫刻家新協会(ソシエテ・ヌーヴェル)展」を開催して大成功を収め、以後長い間圧倒的な人気を誇り、対外的にもフランスを代表する芸術家集団として君臨していたのです。今日の美術史では忘れ去られてしまった彼らの芸術はどのようなものだったのでしょうか。

彼らの作品の題材は「日常」でした。親しい人々や景色を自然な姿で、固有の特徴的なスタイルで描き続け、「親密派(アンティミスト)」と称されます。

THE LAST IMPRESSIONISTS : TIME OF INTIMACY



シャルル・コッテ《星の夜》

彼らの描く自然や人物は、忠実な自然観察に基づきながら、見る者に内的な感情を引き起こすような情緒が込められており、その意味で象徴派の流れも汲んでいると言えます。

強い理念や主義主張ではなく、友情によって集ったソシエテ・ヌーヴェルの画家が、身近なものの飾らない姿を愛情あふれるまなざしで描く。彼らの存在とその絶大な人気こそが、芸術の都として絶頂期を迎えていたパリの豊かさの表れではないで

しょうか。より前衛的なものに流れていく時代の狭間、フォーヴィスムやキュビスムの運動が巻き起こる最中で、見たものを描くという自然主義を貫いた「最後の印象派」の芸術家たち。約100年前の人々から愛された作品を通して、ベル・エポック(美しき時代)の空気を感じて頂ければと思います。(田中有沙子)

もうひとつの輝き 最後の印象派 1900-20's Paris

2016.9.17(土) → 10.30(日)

休館日:毎週月曜日(9月19日(月・祝)、10月10日(月・祝))は開館、9月20日(火)、10月11日(火)は休館

観覧料:一般1,000(800)円/高校・大学生500(400)円 ()内は20名以上の団体料金

中学生以下、65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催:郡山市立美術館

後援:在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本

協力:日本航空

企画協力:株式会社ブレントラスト



エルネスト・ローラン《背中》 1923年 油彩/キャンヴァス 個人蔵 Photo © Yves Le Sidaner

アンリ・ル・シダネル《テーブル、白の調和》 1927年 油彩/キャンヴァス パリ市立現代美術財団 Fonds Municipal d'Art Contemporain de la Ville de Paris Photo © FMAC / Roger-Viollet

シャルル・コッテ《星の夜》 1894年 油彩/キャンヴァス ティエーリー・メルシエ画廊 Galerie Thierry Mercier Photo © Yves Le Sidaner



伝岩佐又兵衛勝以《山中常盤物語絵巻》(部分) (重要文化財)

東日本大震災復興支援

MOA美術館名品展

2016.11.5(土) → 12.11(日)

休館日: 毎週月曜日

観覧料: 一般1,000(800)円/高校・大学生500(400)円

()内は20名以上の団体料金

中学生以下、65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方は無料

主催: 郡山市立美術館、MOA美術館、福島民報社

野々村仁清
《色絵金銀菱文重茶碗》
(重要文化財)《瀬戸茶入 銘:臨月》
(豊臣秀吉所持)

仁清作《色絵金銀菱文重茶碗》、金森宗和の依頼で東福門院和子へ献上するためにつくられたといわれている一組の茶碗です。東福門院は徳川秀忠とお江の方の間に生まれた娘で、後水尾天皇の中宮となった女性です。宗和は「夫婦茶碗」として献上したのでしょいか。

もうひとつの重要文化財は《山中常盤物語絵巻》です。牛若(義経)が山中という宿場で殺された母・常盤御前の仇討をする、というストーリーを絵巻にした作品です。信長に

反逆した荒木村重を父とするという数奇な運命のもとに生まれた異彩の絵師・岩佐又兵衛作と伝わる名品です。

このほか、俵屋宗達や尾形光琳・乾山らの琳派の傑作、菱川師宣から葛飾北斎までの肉筆浮世絵などとともに、豊臣秀吉や千利休ゆかりの茶の湯にかかわる名品なども出品されます。日本の歴史を彩った人物たちが実際に手にとった名品の数々。彼らの息吹が感じられるかもしれません。

(鈴木誠一)

秀吉、利休、仁清、宗達、光琳、師宣、北斎…そして又兵衛

雪村周継 《四季山水図屏風》 特別展示

2016.12.17(土) → 2017.1.15(日)

休館日: 毎週月曜日、年末年始(12月28日(水)~1月4日(水))

会場: 企画展示室

観覧料: 常設展のチケットでご覧いただけます。

一般200(150)円/高校・大学生100(70)円

()内は20名以上の団体料金

中学生以下、65歳以上の方、障がい者手帳をお持ちの方は無料



雪村周継《四季山水図屏風》 16世紀後半 墨・紙/六曲一双屏風

室町時代後半を代表する画僧、雪村周継(しゅうけい)。彼は晩年を三春の戦国大名田村氏の領内で暮らしました。郡山市西田町にある雪村庵は、雪村が過ごした庵のあった場所にあります。2度目の会津訪問と三春で暮らした時代に描かれたと考えられる、当館蔵《四季山水図屏風》は、四季の風景を悠々とした構図の中に描いた迫力ある作品です。

右:ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー
《ベン・アーサー》
1819年 エッチング、メゾチント

左:サー・エドワード・コーリー・バーン＝ジョーンズ(画)
W.モリス『世界の果ての泉』
1896年 木口木版/本



郡山市立美術館コレクションの粋を特別展示

本展は、当館が誇る所蔵品から二つのテーマで名作を展示する、特別展示です。

一つ目のテーマである「ローダー・コレクション」は、イギリス版画の一大コレクションです。イギリスの美術研究者で蒐集家である、ロバート・ローダー氏が蒐集しました。18世紀のブレイク、そして19世紀のターナー、コンスタブルから第二次世界大戦後までの作家115名、作品約500点で構成されています。今回の展示では、1800年代半ばから20世紀前半までに活躍したイギリス人美術家による主要な版画、および代表的な挿絵本の中から選りすぐった作品で、イギリス美術の流れを振り返ります。

また、二つ目のテーマの柱とするクリストファー・ドレッサー(1834~1904)は、先駆的かつ多分野で数多くの作品を創り出した、イギリスにおける最初のインダストリアル・デザイナーです。日本をはじめとする東洋の陶磁器や金属器などを幅広く研究し、それまでの西洋の伝統的な装飾の概念にとらわれない、自由な発想で生み出されたデザインが特徴的です。素材本来の持ち味を十分に生かし、その美しさと機能に寄り添った彼のデザイン

は、現在でも新鮮な輝きを保ち、私たちを魅了し続けています。モダン・デザインへの道を切り開いたデザイナー、クリストファー・ドレッサーの、生活に根ざしたデザインの数々をご紹介します。

普段、当館コレクションを展示している常設展では、なかなか一度にその全貌をご紹介することはできませんが、今回、特別展示としてより多くの作品をまとめてご覧いただけます。郡山市立美術館のコレクションをぜひご堪能ください。

(新田量子)

コレクション探訪 英国紳士の審美眼

2017.1.21(土) → 3.20(月・祝)

休館日:毎週月曜日(3月20日(月・祝)は開館)
観覧料:常設展のチケットでご覧いただけます。
一般200(150)円/高校・大学生100(70)円
()内は20名以上の団体料金
中学生以下、65歳以上の方、
障がい者手帳をお持ちの方は無料
主催:郡山市立美術館

右:クリストファー・ドレッサー
《スプーン・ウォーマー》
金属、電気メッキ
製作:ヒューキン&ヒース社

左:クリストファー・ドレッサー
《プロペラ瓶(緑色クルーサ・ガラス)》
ガラス
製作:ジェイムス・クーパー&サンズ社



常設展示のご案内

当館の所蔵作品を、期間ごとにテーマ展示しています。

～ 2016.10.16(日)

- 1 光を描く
- 2 日本の印象派とフォーヴィスム
- 3 郡山ゆかりの作家たち
- 4 コットマンの建築遺構集/涼のガラス

2016.10.19(水) ～ 2017.1.29(日)

- 1 ヴィクトリア朝の美術
- 2 日本近代美術[特集:原撫松]
- 3 日本画の表現
- 4 銅版画の魅力/ガラスの美

2017.2.1(水) ～

- 1 イギリスの人と自然
- 2 冬の風景
- 3 日本の前衛美術
- 4 明治の石版画/用の美



受講生作品

寄稿

「生誕140年 吉田博展」
関連ワークショップ

「初心者のための木版画」 をふりかえって

木下 泰嘉

(版画家、日本版画協会 会員)

初めて郡山市立美術館を訪れてから20年になります。美術館でのワークショップの仕事は、当時私にとって初めての体験でした。今回で7度目となったワークショップは、「生誕140年 吉田博展」に合わせて開催されました。受講者の中にはお会いしたことのある方もいて、アットホームな気持ちで楽しい時間を過ごしました。

吉田博は、浮世絵の伝統的な木版画の技法をふまえて、現代的な技法と表現を合わせた作品を作っています。ワークショップでは、四版多色刷りで主版（アウトライン的な版を一版作り、色版を加えて制作しました）

下絵作り

主版の下絵は、コピー機を使って拡大、縮小して下絵を作りました。出来上がった下絵に色をつけて作品の構想を練り、版の重なりなどを考えて版を分けてきました。

転写

下絵に見当（いつも紙を同じ位置におく目印）を書いて版の数分コピーをします。版木にシンナーを塗り、コピーした下絵をおきバレンで圧力を加えるとコピーのトナーが溶けて版木に転写されます。

彫り

転写の終わった版木の必要な所（色をつける所）を残してまわりを彫ります。彫刻刀を使うことが初めての方、小学校以来

の方など最初はなかなかうまく彫れませんが、木目の方向を考えたたり、彫刻刀の握り方が少し馴れたところに彫り終わりました。

刷り

彫り終わった版の上に水性絵具をのせて、ハケで均一に伸ばして、和紙をおきバレンで刷ります。皿に溶いた絵具と実際に刷った色味が少し異なり、なかなか思うような色ができません。また、絵具と少し混ぜる糊の割合がうまくいかなく、掠れたり、紙が版にくっつくなど、苦戦する姿もみられました。最終的に一版一版刷り重ねて、作品を仕上げました。

4日間はアツと言う間に終わりましたが、「もつと時間が」と言う声もあり、楽しく充実した時間が過ごせました。

木版画は、絵を描き版を分けること（頭を使うこと）、版を彫ること（指先を使うこと）、刷ること（体力を使うこと）と三つの異なる作業を行います。彫刻刀とバレンがあれば自宅でも気軽に木版画はできます。年賀状もパソコンでなく、手の温もりのある木版画で作ることもいいと思います。

郡山市立美術館のワークショップでは、いつも楽しく充実した講座を行なうことが出来てスタッフに感謝しています。

町田市立国際版画美術館やひろしま美術館などでもワークショップを行なっていますが、郡山市立美術館は私にとってワークショップの原点であり、大切にしたい美術館です。



「生誕140年 吉田博展」関連ワークショップ
「初心者のための木版画」

平成28年7月9日（土）、10日（日）、
16日（土）、17日（日）（4日間連続講座）

講師：木下泰嘉さん（版画家）
場所：創作スタジオ



寄稿

美術館で「木工の時間」での出会い

佐藤 禎仁（郡山造形サークル・小学校教諭）

夏休みに美術館ロビーで開催している小学生の作品展「風土記の丘の美術展」に合わせて行っているこの企画も、今年で11回目を迎えました。この企画のはじまりは、展示されている小学生の作品がどうやってできるのかを観覧者に体験してもらおうというものでした。実際は子どもが活動の中心になっていますが、そんな中、子どもに負けじと作品づくりに奮闘している大人の姿を見るとうれしくなります。「見るとやるとは大違い」で、実際につくってみることでものづくりの楽しみや苦しみが実感できます。そうすると子どもたちの作品を見る目も作品から感じるものもまた違ってくるのです。

例年、私は木材によるものづくりコーナーを担当します。ここは作品をつくるのに時間がかかり、のこぎりやナイフなどの刃物を扱うマニアックなコーナーです。また、夏休み中に美術館に実習生が来ており、その学生にもスタッフとして手伝ってもらいます。学生にとつてもものづくりを通して人や材料、用具とかかわる「木工の時間」は貴重な体験学習の場となっています。そんな中、印象に残る親子に出会いました。小学校低学年の男の子とお母さんが

私の担当コーナーにやってきました。その男の子、のこぎりを初めて使ったのでしよう。無駄に力が入りすぎ、なかなか木は切れません。それでもその子は黙々とのこぎりを動かし続けました。

「あつ」のこぎりの歯が指に当たって出血。担当していた実習生は驚いてしまいました。応急措置をしましたが、これでやる気を失ってしまったなど思っていたところ、その子はまた木を切り始めました。その後も別のところに切り傷を負いましたが、最後までやり通し、作品をつくりあげたのです。傷を負ったときのお母さんの言葉が素敵でした。「傷は男の勲章だ。」

作品を手にして帰る男の子は何だかたくましくなったように見えました。わずかな時間でしたが、ものづくりという活動の中で、男の子は新たな材料や用具、技術と出会い、また新たな自分とも出会うことができました。それは、「木工の時間」に連れてきてくれたががをしても応援してくれたお母さんがいたからこそ。私と実習生も2人との出会いに心が温かくなりました。こんな出会いが「木工の時間」の醍醐味です。



夏休み公開ワークショップ
「第11回 風土記の丘
木工＆美術の時間へようこそ！」

平成28年8月6日(土)
講師:郡山市内の小中学校の先生
場所:多目的スタジオ

R e p o r t

「生誕 140 年 吉田博展」 入場者 1 万人突破記念セレモニーが 行われました

6月4日から7月24日に開催された「生誕140年吉田博展」は、2万人を超える入場者を迎え、盛況のうちに閉幕しました。

7月18日に1万人を突破し、記念セレモニーが行われました。



講演会

「吉田博—その水彩画の魅力」

平成28年6月25日(土)

講 師: 安永幸一さん(元福岡市美術館副館長)

場 所: 多目的スタジオ

洋画家、吉田博の画業全体をたどり、高い技量によって詩情豊かに描いた水彩画が、アメリカで評判となったことなど、多くのエピソードを交えながら、吉田博の水彩画作品を解説していただきました。



講演会

「江戸時代における 西洋更紗の輸入とその受用」

平成28年8月20日(土)

講 師: 石田千尋さん(鶴見大学教授)

場 所: 多目的スタジオ

世界の交易史を踏まえつつ、日蘭交易における更紗の輸入とその受用について、貴重な文献資料に基づいてお話しいただきました。



アート・テーク

平成 28 年度 第 2 回 「日本美術史～受容と展開～」

平成28年7月23日(土)

講 師: 佐治ゆかり(当館館長)

場 所: 多目的スタジオ

外来美術の受容と展開という側面を抜きにしては語ることはできない、日本美術の歴史。特に西洋文化、芸術表現の受容、交流を通して、日本の美術史がどのように形成、展開してきたのかを探りました。

ワークショップ

「季節を染める 枇杷—」

平成28年9月10日(土)

講 師: 佐治ゆかり(当館館長)

場 所: 創作スタジオ

古くから食用や薬用として利用されてきた、日本人にとって親しみ深い植物である枇杷。濃緑の葉に秘められた色で、二種類のスカーフを染めました。とても味わい深い、あたたかみのある季節の色が引き出されました。



第 15 回 風土記の丘の美術展 ～郡山市内の小学生による作品展～

平成28年7月18日(月・祝)～8月21日(日)

場 所: 美術館ロビー

主 催: 郡山市立美術館

郡山市小学校造形教育研究会

夏休み期間恒例の「風土記の丘の美術展」。市内を5つの地域に分けて、週替わりで展示しました。郡山市内の小学生が図工の授業で作り上げた、感性豊かで色とりどりの作品が並びました。



企画展関連イベント(10月7日以降)

もうひとつの輝き 最後の印象派 1900-20's Paris

美術講座1「最後の印象派とその時代」

日 時:10月10日(月・祝) 午後2時から
場 所:講義室(入場無料)
講 師:当館学芸員

美術講座2「最後の印象派の魅力」

日 時:10月30日(日) 午後2時から
場 所:講義室(入場無料)
講 師:当館学芸員

ギャラリートーク

日 時:10月23日(日) 午後2時から
場 所:企画展示室(企画展チケットが必要です)
講 師:当館学芸員

映画会「フレンチ・カンカン」(1954年、フランス)

日 時:10月15日(土) 午後2時から(開場は30分前)
場 所:多目的スタジオ(入場無料)

東日本大震災復興支援 MOA美術館名品展

講演会「MOA美術館の名品ー岩佐又兵衛を中心に」

講 師:矢代勝也さん(MOA美術館学芸部次長)
日 時:11月23日(水・祝) 午後2時から
場 所:多目的スタジオ(入場無料)

美術講座1「浮世絵事始め」

日 時:11月12日(土) 午後2時から
場 所:講義室(入場無料)
講 師:当館学芸員

美術講座2「琳派の美」

日 時:12月10日(土) 午後2時から
場 所:講義室(入場無料)
講 師:当館学芸員

ギャラリートーク

日 時:11月5日(土)、12月3日(土) いずれも午後2時から
場 所:企画展示室(企画展チケットが必要です)
講 師:当館学芸員

映画会

「山中常盤 牛若丸と常盤御前 母と子の物語」(2004年)

日 時:11月20日(日) 午後2時から(開場は30分前)
場 所:多目的スタジオ(入場無料)

第9回 風土記の空

～郡山市内の中学校美術部による作品展～

会 期:11月12日(土)～12月11日(日)
主 催:郡山市立美術館
場 所:美術館ロビー(入場無料)

郡山市内の中学校の美術部での活動で制作された作品を紹介するものです。中学生が自分たちの作品の額装、展示を行う展示体験も実施します。中学生のみずみずしい感性にあふれた作品を、ぜひご覧ください。



郡山市立美術館
文化講座

アート・テーク

第4回「見えないものを見る力

～ドキュメンタリーの現場から～

日 時:平成28年11月26日(土)

第1部 10:00～12:40 ドキュメンタリー映画上映 **申込不要**

第2部 14:00～15:30 河瀬直美 講演会 **申込必要**

受付期間/10月1日(土)～10月31日(月)必着
(申込方法はホームページ等をご覧ください。)

特別講師:河瀬直美さん(映画監督)

場 所:多目的スタジオ(入場無料)

第5回「動物ものまねー声の形象」

日 時:平成29年1月28日(土) 14:00～15:30

特別講師:江戸家小猫さん(演芸家)

場 所:多目的スタジオ(入場無料)

申込必要 (詳細はホームページ等をご覧ください。)

第6回「レコードと暮らし」

日 時:平成29年3月18日(土)

第1部 14:00～15:30 講演会 レコードと暮らし **申込不要**

第2部 16:30～18:00 レコード寄席 **申込必要**

(詳細はホームページ等をご覧ください。)

特別講師:田口史人さん(レコード店「円盤」店主)

場 所:多目的スタジオ、講義室、他(入場無料)

TOPICS

美術館 カフェ

juju 130 cafe

営業時間 / 11:00 - 17:00

電 話 / 024-942-2250

【期間限定】

マロン・マロン・ワッフル

単品610円(ドリンクセット990円)

人気のベルギーワッフルに期間限定メニューが登場。プレーンワッフルに大粒の栗とマロンジェラートをトッピング。

この季節でしか味わえないワッフルを是非ご賞味ください。



郡山市立美術館
Koriyama City Museum of Art

〒963-0666 福島県郡山市安原町字大谷地 130-2
TEL.024-956-2200 FAX.024-956-2350
http://www.city.koriyama.fukushima.jp/bijyutukan/

発行日/平成28年10月7日



紙へリサイクル可
この印刷物は、適切に育まれた森から生まれたFSC® 認証紙と、環境にやさしい植物油インキを使用しています。